

Monthly Report

Vol.49 / 2010 Jun.

「伊達なSPORT PROJECT」共同記者会見



このプロジェクトの詳細は専用ホームページに掲載されています。ブログも日々更新されていますので是非ご覧下さい。

<http://www.sport-project.jp/>



今年度からスタートした研究事業『伊達なSPORT PROJECT』の共同記者会見が本学を会場に5月31日に行われ、テレビ局3社、新聞社5社に取材いただきました。

記者会見を前に、このプロジェクトの責任者である鈴木省三教授から概要の説明があった後、総括の朴澤学長と共に選手4名が入場して記者会見がスタートしました。

はじめに、プロジェクト総括の朴澤学長が「高校生の健全な成長と、日本を代表して世界にはばたくという夢の実現に向けたチャレンジに是非、関係の方々からの応援をお願いしたい」と述べた後、選手4名から決意表明がされました。明成高校の氏家瑞季さんは「このプロジェクトは色々な人に支えられて成り立っているのだから、その方たちの思いや気持ちを裏切らないように練習をしっかりと積み重ね、2年後のユースオリンピックで良い成績を残したい」と、力強く語りました。4名共に、口を揃えてスケルトンの体感速度300km/hというところに魅力を感じたと話しており、今後の成長が楽しみです。

既に練習はスタートしております。学内で選手を見かけた際には是非お声掛けください。



左から

佐藤 弾さん(柴田高校)
安藤 早紀さん(柴田高校)
野倉 大貴さん(柴田高校)
氏家 瑞季さん(明成高校)

目次

伊達なSPORT PROJECT 共同記者会見	1
新体操競技部がベラルーシ共和国を訪問	2
導入演習内で新体力測定を実施	3
スポーツキャリア大学院プログラムの委託先に選定	4
入試懇談会 校長職ご就任を祝う会	5
JICAを通して物品を提供 太極拳教室	6
学生の活躍	7
OBの活躍状況	9

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら広報室までお寄せください。Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供していきたいと考えております。

また、本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

土生佐多 200

伊東宏之 271

Email: kouhou@scn.ac.jp

新体操競技部が研修のためベラルーシ共和国を訪問



ミンスク市長代行を表敬



現地の小学校を訪問



ディナモクラブでの練習



クラブチームで取材

6月13 - 20日に新体操競技部が研修のためベラルーシ共和国のミンスク市を訪問しました。ミンスク市は仙台市と姉妹都市となっており、本学も平成14年に同国の国立体育・スポーツ学院と国際交流協定を締結し、同国から新体操指導者を招聘するなどの交流を図っております。そして今回初めて、学生達が同国を訪問する運びとなりました。

今回の訪問団は、朴澤学長を団長に、山口講師、新体操競技部の大山部長、丹羽監督、外国人指導者のマカロワコーチ、学生5名の総勢10名です。現地では、国立体育・スポーツ学院や地元のクラブチーム、世界的にたいへん有名なディナモクラブ(オリンピックセンター)で練習

を行った他、ミンスク市長代行を表敬訪問したり小学校で交流を行ったりと、たいへん貴重な体験ができたようです。

主将の平間理奈さん(体育学科3年)

「ベラルーシ共和国は世界でも1、2位の新体操大国なので、訪問前から期待は大きかったのですが、期待以上の指導を受けることができました。

普通では絶対に参加することができないディナモクラブにて練習も出来、嬉しく思いました。地元のクラブと大学にて、演技の構成のアイデアとして、より面白く、より点数が取りやすい構成にアレンジして頂きました。また、演技だけでなくウォーミングアップ(バーレックスン、ジャンプ)の指導もして頂き、たいへん多くのことを学びました。

ベラルーシの選手たちは個々の能力が非常に高く、柔軟性はもちろん、手具の操作にも長けており、更に個々がオリジナルな動きを工夫していることに驚かされました。自分への自信と創造力、自分から学ぼうとする気持ちが日本人には欠けていると痛感しました。

今回のベラルーシ研修は、多くの教職員や仙台市の方々にも動いて頂き、実現したものです。この貴重な経験を無駄にしないように、チームとして成長していきたいです。」

学生による報告会は新体操競技部の大会日程等を考慮し、9月に予定されています。

今回のミンスク市訪問に先立ち、6月10日には仙台市の奥山市長を表敬訪問し、ミンスク市との間を取り持っていた御礼を兼ねて、朴澤学長と新体操競技部の指導者と部員が奥山市長を表敬訪問しました。奥山市長は学生達に「現地で同じ年頃の新体操競技者と交流することで、きっと新たな発見があるでしょう」とこやかに語りかけて下さいました。また、朴澤学長にミンスク市長代理 ミカライ・ラドゥツカ氏宛の親書を託されました。朴澤学長はお預かりした親書を現地にて、同ミンスク市長代理に手渡ししました。



導入演習内で新体力測定を実施



年度末に体力測定室(第3体育館1F)に体力自己管理システムが導入され、これにより、3カ年計画で整備を進めてきた栄養・健康・体力の3つで構成される自己管理システムが構築されました。このシステムの目的は、学生が自らの意思で自分自身を管理支援することで、蓄積されたデータは授業での活用や、卒業論文でのデータ利用などが考えられています。

6月中には文部科学省の新体力テスト計測が全学科1学年の導入演習内で実施されました。自己管理システムオフィサーの横川教授をはじめ

め、クラス担任、補助スタッフとして入った新助手と臨時職員の指導と、スポーツ情報マスメディア研究所で作成したDVD「体力自己管理システムの使用法」により、どのクラスもスムーズに実施されました。新体力テストは全国一律のテストのため、全国の方との比較が可能であり、体力測定テストは競技ごとのトップアスリートとの比較が可能となるため、学生個人が自身の競技や目的にあわせてシステムを利用することが望まれます。

【測定方法】

1. 体重測定
2. 学生証をカードリーダーにかざし、利用者情報を専用ICカードに登録
3. 専用ICカードをパソコンに挿入し、画面表示に従って体重などの必要事項を登録
4. 体力測定(測定毎に器具のカードソケットにICカードを挿入して測定)
5. 測定終了後にパソコンに専用ICカードを挿入し、測定結果を記録



握力測定



上体おこし



長座体前屈



反復横とび



立幅とび

測定項目

<新体力テスト>

握力測定 長座体前屈 反復横とび 上体おこし 最大酸素摂取 立幅とび

<体力測定テスト>

握力測定 背筋力測定 長座位体前屈 閉眼片足立ち 全身反応時間
反復横とび 上体おこし 最大酸素摂取 垂直とび

文部科学省の「大学院でのスポーツ指導者の学位取得を支援する教育プログラム開発事業」の委託先5大学の一つに選定

6月1日に本学は、文部科学省より「大学院でのスポーツ指導者の学位取得を支援する教育プログラム開発事業（スポーツキャリア大学院プログラム）」の委託先の5大学（仙台大学、福島大学、筑波大学、早稲田大学、鹿屋体育大学）の1つに選定されました。

5大学は日本オリンピック委員会（JOC）の「ナショナルコーチアカデミー」の講習を大学院の単位として認めるなどの教育プログラムの開発やトップレベルの競技者が大学院に進学して優れた指導者になるためのサポート体制のプログラム開発を行います。

文部科学省ホームページ

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/22/06/1294164.htm



柴田町特定高齢者介護予防事業「健康寿命100歳を目指す介護予防の運動教室」



6月4日（金）に柴田町特定高齢者介護予防事業「健康寿命100歳を目指す介護予防の運動教室」が開講しました。この教室は要支援・要介護になるリスクの高い高齢者を対象に「運動器の機能向上」を目的としています。

受講者は特定高齢者（65歳以上で生活機能が低下し、近い将来介護が必要となるおそれのある高齢者）6名です。

この教室は全10回で、8月6日まで毎週金曜日に本学を会場とされ、講師を橋本教授、笠原講師、岩垂新助手を中心に担当し、健康づくり運動サポーター有資格者の菊田遼さん、田中麻美さん（健康福祉学科4年）、松ヶ崎結さん、吉田美香子さん（運動栄養学科4年）もスタッフとして参加しています。

この教室は全10回で、8月6日まで毎週金曜日に本学を会場とされ、講師を橋本教授、笠原講師、岩垂新助手を中心に担当し、健康づくり運動サポーター有資格者の菊田遼さん、田中麻美さん（健康福祉学科4年）、松ヶ崎結さん、吉田美香子さん（運動栄養学科4年）もスタッフとして参加しています。

船岡支援学校から職場体験



船岡支援学校高等部2年生の鈴木結美子さんが、職場体験のため6月28日（月）～7月2日（金）に予算管理課・庶務課で事務作業を行っています。

初日はコミュニケーションがうまく取れるか心配だったそうですが、部屋の明るい雰囲気の中で安心して仕事ができているそうです。年齢の近い浅沼職員指導のもと、主に旅費計算と復命書のファイリングなどの業務を行っています。趣味は読書・音楽鑑賞・スポーツ観戦という鈴木さんは大変明るいので庶務課にお寄りの際は話しかけてあげてください。

なお、鈴木さんのお姉さん（満美子さん）は本学健康福祉学科1年生だそうです。

また、7月1、2日には船岡支援学校の生徒2名が管理課で職場体験をする予定になっています。

高校進路指導関係教諭対象の「入試懇談会」を開催



6月25日(金)に仙台国際ホテルを会場に入試懇談会を開催し、東北6県より過去最高の81

校81名の高校進路指導関係教諭の出席がありました。

懇談会でははじめに、朴澤学長が挨拶の中で、過日、文部科学省に設置認可申請を行った現代武道学科(平成23年設置認可申請中)の説明もされ、本学の人材育成の取組みなどが話されました。その後、中房入試創職部長より、入試に対する受験生と大学とのマッチング及び、高大接続について説明がなされました。また、4学科長より3つのポリシー及び教育目標について説明を行い、平成23年度入試については佐々木事務局長兼入試創職室長が詳細な説明を行いました。本学の教育方針や取組みについて知って頂く良い機会となったようです。

第12回 仙台大学同窓生の校長職ご就任を祝う会



6月25日(金)に、KKRホテル仙台を会場にして宮城県内で校長職に就任された先生方を祝う「第12回仙台大学同窓生の校長職ご就任を祝う会」が開催されました。今春、校長先生になられたのは、第7回生の佐藤純一先生(七ヶ宿中学校)、第11回生の村石好男先生(鬼首小学校)、第12回生の佐藤拓一先生(七郷中学校)の3名です。

当日は、朴澤泰治理事長・学長、本学名誉教授の本多弘子先生、佐藤佑先生、阿部芳吉宮城教育大学副学長らが多数お祝いに駆けつけて下さり、総勢60名の盛大な会となりました。これまで同会では、県内において校長職にご就任された卒業生27名(今回含む)をお祝いしています。

明成高校父母教師会が来訪



6月24日(木)に明成高校父母教師会の15名(教員含む)が来学し、佐々木事務局長及び川村庶務課長が対応を行いました。はじめに佐々木事務局長から本学の教育方針・概要と進学にかかわる概要が説明されました。その後、施設見学を行いました。3時間ほどの滞在でしたが、本学を知って頂く良い機会となりました。

JICAを通して世界の子供たちに物品を提供



国際協力機構（以下：JICA）が主催している平成22年度「世界の笑顔のために」プログラムが4月にスタートしたことに伴い、本学でも学生有志10名が、自作のポスターを学内や地域のスーパーなどに掲示し、不要になった物品（特にスポーツ用品）の提供を呼び掛けました。

このプログラムは開発途上国で必要とされている教育・福祉・スポーツ・文化などの関連物品を日本国内で募集し、JICAがボランティ

アを通じて世界各地へ届ける活動です。本学でも柳講師の提案により、平成19年の春から年2度、活動に賛同し、今回が7度目の活動となります。これまでバレーボール用品、ソフトボール用品、野球用品、サッカー用品、陸上競技用品、剣道用品などの物品を提供し、ベナン共和国やニジェール共和国など各国から御礼状が届いています。

学生代表の横山宗平さん（健康福祉学科3年）は「世界規模の活動なので、自分にとっても大きな経験になると思います。昨年から活動に加わりました。今回の回収では、運動部からだけでなく、教職員個人からの提供もありました。この活動は、個人でも参加できるので、仙台大学をきっかけに地域にも広がれば嬉しいです。」と話しています。

6月8日（火）には学生スタッフが集まった物品を梱包し、JICAへ発送を行いました。今回集まった物品は下記の通りです。

< 今回の物品提供 >

バレーボール	18個
絵本	4冊
野球ヘルメット	2個
軟式用バット	11本
軟式グローブ	1個
キャッチャープロテクト	1セット

ボランティア学生10名

横山宗平さん（健3）、阿部早紀子さん（健3）、加藤和宏さん（運3）、久保田侑樹さん（運3）、佐藤翔哉さん（運3）、千葉龍太さん（運3）、佐々木里花さん（ス2）、槻山朋恵さん（ス2）、

< 次回に繰り越すもの >

木製バット （素振り用）	1本
バット	1本
軟式野球ボール	36球 （内、未使用12球）
サッカーボール	6個

太極拳教室



5月12日（水）より、留学生の黄聡さんこうそうによる太極拳教室がはじまりました。この教室は昨年からはじめられ、教職員・学生を対象に毎週水曜日の17時30分より学生支援室西側の芝生で行っております。教室は7月21日まで全10回行われ、基本動作の修得に重きをおいています。参加自由となっておりますので振るってご参加下さい。

学生へのお褒めのお言葉を頂戴しました



6月15日(火)に「なかむらさん」とおっしゃる特別支援学級のご父兄から、代表電話に、お褒めのお電話がありました。「6月13日に行われた中学校の特別支援学級の卓球大会の際に、仙台大学の学生のボランティア11名の姿勢がととてもすばらしかったの

で電話をしました。ボランティアは見えない部分ではあるけれども、今後とも積極的なかわりをさせていただきます。」

ということで、是非学生の皆さんにお伝え下さいとのことでした。

大学関係者として、大変嬉しい出来事であり、本学の学生を非常に誇らしく思う瞬間でもありました。

派遣ボランティア11名

緑川義崇さん(健4)、横山宗平さん(健3)、丸山内大翼さん(健3)、沼倉歩美さん(健3)、高橋舞さん(健2)、氏家美紀さん(体2)、松澤圭さん(健1)、佐藤桂子さん(健1)、小西夢子さん(健1)、鈴木友菜さん(健1)、小牧ひかるさん(健1)

漕艇部2名がボートU23世界選手権日本代表に選出



7月22-25日にベラルーシ共和国で開催されるボートのU23世界選手権日本代表に漕艇部

にしむらみつおの西村光生さん(体育学科3年)といけうちわたる池内風さん(体育学科2年)が選出されました。軽量級男子舵手なしフォアの日本代表クルーとして世界に挑みます。池内は初の日本代表選出。西村は昨年も同大会・同種目に出場し、日本チーム初の銀メダルに輝いています。

両名には史上初の金メダル獲得に期待がよせられています。

第19回河北レガッタ



写真提供: 朴澤学長

6月26、27日に宮城県長沼ボート場で行われた「第19回河北レガッタ」一般・大学部門において、本学は4種目(男子シングルスカル、男子ダブルスカル、女子ダブルスカル、女子舵手つきクォドルプル)で優勝を飾りました。ボートの花形レース男子エイトでは、東北大学に0.21秒の僅差で競り負け、2年連続の優勝とはなりませんでしたが今回のレースの反省を活かし、8月のインカレにおいて悲願の男子エイト優勝を期待したいところです。なお、決勝が行われた27日には今年創設された柴田町ボート協会から約40名が応援にかけ付けて下さり、選手を後押しして頂きました。

佐藤寛大さんが男子やり投げで第2位 / 日本選手権



6月6日(日)に香川県で開催された「第94回日本陸上競技選手権大会兼アジア大会代表選手選考会」において、男子やり投げの佐藤寛大さん(さとうのひろひる / 体育学科4年)が自己最高記録の76m49cmを投げ、世界選手権ベルリン大会銅メダリストの村上幸史選手(スズキ)に次いで2位となりました。

佐藤さんは地元、蔵王高校出身。高校では国体で3位になるなど活躍し、大学入学後も1年次に日本ジュニア優勝、昨年のインカレで初優勝しています。今シーズンの日本ランキングは堂々の第2位。投げるたびに自己記録を更新している佐藤は、世界陸上競技選手権大会の参加標準記録B(78m)まであと1m51cmに迫っています。

佐藤さんは6月18日(金)に神奈川県平塚競技場で行われた日本学生個人選手権大会(チャンピオンシップ)でも従来の大会記録を3m76cmも上回る大会新記録で優勝しました。「ここ1年間で78mを投げれば来年の世界選手権に出場できる権利を得るので、78mは今の目標です。この記録は簡単ではありませんが、可能性のある距離なので、在学中に更新したいです」と話しています。

高大連携事業の明成高校バスケットボール部、体操部がインターハイの切符を獲得



宮城県高校総体において、明成高校バスケットボール部が男女アベック優勝を果たしました。本学の佐藤久夫准教授がヘッドコーチを務める男子バスケットボール部は、6月7日に行われた東北学院高校との決勝戦で、残り0.6秒で同点に追いつき、延長戦の末での4連覇を果たしました。昨年12月のウィンターカップで全国制覇を果たしているだけに、ライバルチームからのマークも激しくなることが予想されますが、インターハイでの上位入賞、そしてインターハイ初制覇に期待しましょう。



明成高校体操部も、男子は県予選で団体6連覇してインターハイ出場権獲得、女子も個人総合で2位と5位に入り、2名がインターハイ出場を決めました。

インターハイは7月28日 8月20日に競技毎の日程で行われ、体操競技は8月2日 4日に沖縄県総合運動公園陸上競技場、バスケットボールは7月28日 8月3日に沖縄市や中城市などで開催されます。

写真提供 / 明成高校

卒業生が「教育論文研究助成金」で特選論文賞を受賞

～ 学び続ける卒業生の歩み(佐藤佑名誉教授よりご紹介)～

平成22年1月7日、宮城県教育公務員弘済会が主催する、第38回教育論文研究助成金の贈呈式が仙台市青葉区のホテルで行われ、特選論文賞に本学の卒業生(562年度卒・第18回生)である高橋広満さんが選ばれました。

佐藤佑名誉教授の愛弟子である高橋さんは、大学卒業後、2年間の講師経験を経た後、中学校教諭として採用され、現在は登米市南方小学校の教諭として多忙な日々をお過ごしです。今回受賞された研究主題は「学校におけるキャリア教育の具現化を目指して～キャリア教育プログラムの構築とその実践を通して～」というもので、キャリア教育の必要性が求められている中、小学校における理解や実践に広がりが見られない実態に際し、キャリア教育を小学校教育において推進し、児童に「生きる力」をはぐくんでいくために、具体的な教育プログラムを構築し実践を試みる内容となっています。指導方針と研究・実践内容は、それぞれ以下の通りです。

<指導方針>

児童のキャリア発達段階を踏まえて指導にあたる
 教科、領域の関連を図り、児童のキャリア発達を支援する指導計画の作成にあたる
 人の生き方や働くことに対する価値観に触れる機会を意図的に多く設定する
 人や社会のかかわりを重視した学習活動を創造する

<研究・実践内容>

(1) キャリア教育プログラムの構築
 キャリア発達課題の設定
 年間指導構想の立案
 指導の系統性・関連性を考慮した指導計画の作成

(2) キャリア教育プログラムの実践
 高橋さんは、平成17～18年度、宮城県教育研修センターで専門研究員と進路指導(キャリア教育)のグループ研究に取り組む機会に恵まれ、2年間の研究をベースに学校現場で実践した研究内容を、今回論文としてまとめたそうです。



在学時の高橋広満さん

本学の卒業生の多方面でのご活躍は、在校生・本学関係者にとって何よりの励みであり、みなさまからの広い情報提供をお待ちしております。

池上礼一選手がJ2のFC岐阜に加入

本学OBの池上礼一選手(平成17年度卒)がJ2のFC岐阜に加入しました。

池上選手は習志野高校(千葉県)から本学に進学。3年次から全日本大学選抜チーム入りし、北海道・東北選抜の一員として出場したデンソーカップチャレンジサッカーでは優秀選手に選出。4年次には日本サッカー協会の特別指定選手としてJ1のFC東京に所属。同年に出場した2005ユニバーシアード大会でも日本チームの優勝に貢献しました。卒業後、F東京の選手として2試合に出場、昨年はFC刈屋に所属していました。

池上選手は3年間にわたって、ケガの痛みと戦いながらプレーしていましたが、辛ிரハビリを経てケガが完治。新天地であるFC岐阜での活躍が期待されます。



写真は在学中に撮影したもの

卒業生2名がJICA青年海外協力隊員に



2月のマンスリーレポートでも紹介しましたが、JICA主催の青年海外協力隊員として2年間、国際貢献活動に参加する卒業生2名が渡航直前の6月14日に大学を訪ねてくれました。

ペルーでソフトボールを指導する村橋綾子さん（写真：左）と、マレーシアで障害者スポーツ普及に

携わる齋藤まりさん（共に今年3月卒業）で、研修中はそれぞれが派遣先で使用するスペイン語とマレー語を170時間に及び学んだり、宗教の基礎知識を学んだりしたそうです。

研修中は慣れない語学に苦労したそうですが、2ヶ月間の研修は2人にとって渡航へ向けた大変貴重な時間となったようです。また、プログラムには多くの現職教員が休職して参加し

ていたそうで、経験豊富な先生方との交流も彼女らを成長させてくれたようです。「ムードメーカーとして研修中、積極的に発言し、皆が話しやすい環境をつくってくれ、研修がまとまっていくのを肌で感じました。派遣先では自分が教える側に回るので、同じような対応をしなければならぬと考えさせられ、良い出会いができました。一緒に頑張った仲間が世界中に散らばり、活動しているだけで、自分も頑張ることができます。JICAの活動に興味がある後輩がいれば是非お勧めします。相手国の発展につながるだけでなく、自分にプラスになる活動。是非、チャレンジしてもらいたいです。」と話します。

既に村橋さんは今月21日、齋藤さんは23日にそれぞれの派遣国に向け出発しました。JICA東北から頂いた連絡によりますと無事、現地入りし、元気に活動をはじめているそうです。2年後に成長した姿を見せてくれることが楽しみです。